

- ・中越……栃尾市立栃尾東小 (理科) (6) 各種会議の開催
- 知のネットワーク形成を促す支援の工夫
- ・下越……新潟市立阿賀小 (音楽)
- 自分を豊かに表現する子どもの育成
- (4) 学習指導改善調査研究事業の実施(予備調査)
- (5) 刊行物の発行及び助成
- ア 指定研究会の「研究紀要」刊行
- イ 機関誌「研究集録 No.42」刊行
- ウ 各郡市小教研の「研究紀要」等刊行助成
- ア 評議員会：年2回(6月、2月)
- イ 理事会：年11回(10月を除き毎月1回)
- ウ 全県地区部長会：年1回(5月)
- エ 研究部会：必要に応じて随時
- オ 研究集録編集委員会：年6回
- カ 研究推進委員会：年8回(4月～3月)
- キ 県費補助事業関係事務説明会：年1回

コ ラ ム



登山家と教育家

長岡市立阪之上小学校長 高 橋 幸 雄

つい先日、5年生の学年行事である「立山自然教室」に出かけてきた。立山連峰を構成している「海拔3,003mの雄山」登山がメインの行事である。

本格的な登山が初めてな子供たちばかりのため、どうしても登山ガイドが必要であった。幸い、登山ガイドの村上さんに今年もお世話になり、全員が無事雄山の山頂に立つことができた。達成感・充実感を子供たちの笑顔の中に見とれた一瞬でもあった。

この村上さん、紛れもないプロの「登山家」である。天候を予測し、子供たちの疲労状況を把握し、揺るぎのない判断のもと、全員を山頂に導いてくださった。こんな村上さんの姿から、「家」という言葉が最後につく人物とはどんな人物なのかと、ガレ場で急斜面が続き、息も絶え絶えの中で考えさせられたのであった。

登山家、柔道家、華道家、評論家、画家、作家さらには大家など。「〇〇家」とは、その道に優れている者、つまり専門家である。では、我々は、「教育家」なのだろうか。教育の専門家であることには違いないが、「教育家」つまり教育の大家とは、とても自分には言えない。でも「家」がついても、教育実践家としてなら、そうだと胸を張れる。いささかなりとも実践者として、教育現場で生きてきた自負があるから。

しかし、実践だけが全面に出てしまったのでは物足りない。哲学とまでは言わないが、教育実践を支える自分流の教育観をもった教師や管理職でありたい。登山家はプロである。教師も子供を導くプロでなければならない。自分流の教育信念と教育理念に支えられた教育実践家が、私にとって目指すプロの姿である。